



10月も半ばになりました。
毎日に秋の深まりを感じております。

子どもたちの園生活も、季節の変化に応じて、すしずう屋外から屋内へと変わって来ます。

雪の季節までは、しばらくの間は、園舎の中が活動の中心になります。

■「どこであそんでもいいんだよ！」

「どこであそんでもいいんだよ！」

朝、登園してくる子どもたちにこんな言葉かけをすると目がキラッと光り、ニコッと笑みがかほれます。

9月の後半から、ホールと園庭の自由あそびで学年の規制を外しました。

これまでに無い雰囲気が出て来て、活気に満ちあふれて来ました。

本来の自給地のあそびの場がとどって来たのです。

この自由あそびからも、子どもたちの育ちに大きな成果があるので、うれしいです。

■10月1日から衣替えになりました。

園庭であそぶ子どもたちを見ていても、これまでだったらカラ・中帽子ですぐに学年も、クラスも判断出来ていました。

しかし、制服になってしまうと胸のバッジだけが頼りです。

若い時は、園児たち一人ひとりの顔と名前を全員頭に入れていたし、母親の顔を覚えていました。

今では、頭に入れても入れても覚えてないのです。本当に困ってます。

年長児たちは、24日のドッチボール大会まで毎日が体育服ですね。毎日、練習に汗を流していますよ。



私たちの道しるべ

(心の育ちシリーズ)

参考文献
『月刊誌 ニューモラル』

人と仲良くする
うそをつかない
約束を守る
人や自分の長所を見い出す
思いやりの心を持つ
お世話になった人に感謝する

礼儀を正しくする
自分とは異なる意見と尊重する
人の役に立つこととする
家族を大切に
ルールやマナーを守る
いのちを大切に

これ以外にもまだまだあるでしょう 『道しるべ』と言えるものが。

道徳とは、私たちがこの社会の中で生きて行くための「道しるべ」になるものではないでしょうか。道徳とは、先人たちが長い時間をかけて作り上げてきた知識と経験の結晶です。その一つ一つには「人に迷惑をかけることなく、円満な社会生活を営むために心がけるべきこと」、あるいは「自分にとって周囲にとっても安心を生まれる」という共通点があります。

これは法律などと同じように、社会に秩序と安定をもたらす規範であり、私たち自身が安心・安全な生活を送る上で欠くことのできないものといえます。

もし交通ルールが無く、自動車や自転車を運転する際のマナーが問われることなかったら、安心して歩かずに済むことができません。ルールが整備され、何より皆に「ルールやマナーを守ろう」というモラルの意識があるからこそ、安心・安全が保たれているのでしょう。

私たちはこの地球上で、たった一人だけで生きていくわけではありません。家族をはじめ、学校や職場など人間関係から、地域社会や国全体、さらには国際社会といった大きなつながりの中で生活しています。そのつながりにより良いものに、円満な社会生活を営むための知恵として、道徳や「社会のモラル」と呼ばれるものが生まれたのではないのでしょうか。